



積丹町総合文化センター図書コーナー

積丹（しゃこたん）、なかなか読めないですよ。アイヌ語の夏「シャク」と、村を意味する「コタン」を合わせた地名。つまり夏場所「シャクコタン」が語源となっています。人口1600人ほど。海岸沿いに少し生活できる土地があり、ほとんど山林で形成されています。

積丹町は小樽、余市を経由して積丹半島の東部に位置します。札幌から高速バスしゃこたん号で2時間半ほど。終点「美国(びくに)」で下車。徒歩5分ほどで図書コーナーが入っている積丹町総合文化センターに到着します。私が訪問した時と異なり、現在札幌からの直行バスが激減しています。小樽始発のバスが1日に数本あるのでこのバスで向かうことをお勧めします。

総合文化センター3階奥に図書コーナーがありますが、どこにあるのかすぐ見つけることができませんでした。6700冊ほどの図書コーナーは普段無人なので、利用者が部屋の照明をつけて借りたい本の貸出手続きをノートに記載します。地域資料はほとんど所蔵せず小説など文芸書が中心。児童書の比率は全体の1/3にも満たしていませんが、毎月小説と同じぐらいの冊数を購入しているそうです。町民からのリクエストを大切に、カウンターに「図書希望リクエストカード」に記載して専用ポストに投函されると、購入する際の強い情報源になります。毎月発行する『広報しゃこたん』には必ず新着タイトルを掲載しています。

積丹町には岬の崖っぶちに「岬の湯しゃこたん」という温泉施設があります。

2022年に町から民間譲渡という形で、温泉の再生と地域活性化の取り組みが行われ、積丹町には書店がないので、この温泉施設で「本」と触れるというコンセプトに。積丹町の(株)SHAKOTANGO、日本出版販売(株)(本社：東京)、またたび文庫(所在：北海道白老町)及び(株)andcraft(所在：北海道札幌市)の共同プロジェクトによって「崖っぶち書店」と「みさきの図書館」が2023年9月に誕生しました。(冬季12月から3月末休館)

「崖っぶち書店」は、積丹半島の断崖絶壁とその温泉という場所に「崖」にまつわる選書というユニークな企画です。3冊1セットでどんな本が入っているか購入の時、ラッピングしているので見ることはできません。5つの「崖」をテーマに選書しています。その中で一つ「崖っぶち三部作『岩と石と砂と』」を購入しました。さてどんな本が入っていたのでしょうか？ちなみに他のテーマとしては「出会ってしまった二人の行く末」など。このコンセプトは図書館でも応用できますよね。

「みさきの図書館」のコンセプトは「みんなの気軽なライブラリー」。温泉に入って休憩場でゴロゴロ。コミックだけでなく絵本や小説など多様なジャンルの読書推進をしています。施設利用者が寄贈する本で成り立っています。

ところで積丹半島一周はいつ周遊できるようになったのでしょうか？北海道開発局『一般国道しりべしロードマップ 229』に歴史的背景が詳細に書かれています。1996（平成 8）年、国道 229 号最後の不通区間となっていた積丹町沼前一神恵内村川白間の区間が開通し、全線開通しました。それまでは余市まで南下して山間部を通過して岩内町まで行き、積丹半島の積丹町から見て反対側に向かうことができるという気が遠くなるような道のりでした。手元にある『マップル北海道道路地図』1987（昭和 62）年発行は、見事に国道が繋がっていません。どうも海岸沿いに歩道はあったようですが、かなり危険だっただろうと推測できます。

積丹半島北西部から日本海に突き出す神威岬（かむいみさき）は高さ 80m の断崖絶壁による積丹ブルーが広がる岬です。駐車場から岬の先端へと続く遊歩道は、アップダウンのある約 770m の道のり。約 20 分歩くと先端に到着しますが、そのアップダウンが結構私の体力にはキツくまだ一度も行ったことがありません。先端に行く「門」の閉門時間があるので必ず時間を確認してください。冬場は閉鎖しています。ちなみに到達すると 300 度の水平線見渡せるビュースポットです。

海の青さは時間帯や天候によって変わります。晴れた日には深い藍色から透明度の高いエメラルドグリーンまでグラデーションを見ることができます。

この岬の先端に向かう入口に「女人禁制の門」があります。積丹観光協会 HP によると、「義経に強く思いを寄せる首長の娘チャレンカ。しかし義経は大陸へ向かって旅立ってしまう。チャレンカはその後を追い、神威岬までたどり着くも義経の船は沖の彼方へ。悲しみにくれたチャレンカは、『和人の船、婦女を乗せてここを過ぐればすなわち覆沈せん』と恨みの言葉を残し海に身を投げてしまった。悲しみと恨みを抱いたチャレンカの身体は神威岩と化し、以来、その周辺に女性を乗せた船が近づくと必ず転覆したことから、神威岬は女人禁制の地に。この決まりは明治時代初期まで続くこととなった。」

現在は女性も門を潜って岬の先端まで行けます。『アイヌのことを考えながら北海道を歩いてみた』カベルナリア吉田著ユサブル発行（2022 年）の表紙は、まさにこの門が描かれています。

最後に積丹町の名産といえばウニやサケ、タラ、コンブなどの海産物！訪れたら少しお高いけどついお寿司とか食べたくなりますよね。

2024 年 7 月訪問
加藤 重男